

課題番号1

課題名	重点課題3 農業ビジネスを加速させる技術開発・普及・農地利用の促進 トマト栽培における技術向上、経営改善の取組	
対象： 管内トマト生産者14戸	計画期間：H29～33	事務所名：北部農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果
低濃度エタノールを利用した土壌還元消毒技術の検証	①事前、現地検討会の開催 ②生育・収量調査 褐色根腐病被害程度調査 ③結果報告会	①収量が約2倍、粗収益は29%増加。 ②技術導入農家1戸(ほ場2か所)増加。 展示ほ結果の情報共有9戸。 ③土壌病害対策として育苗資材の持ち込み対策を新たに3戸実施。

総合評価（コメント）	
<p><b>A：6名 B：1名</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ターゲットにしていなかった根腐萎凋病が発生し、苗からの病原菌持ち込みの可能性が懸念材料と感じた。</li> <li>■完全に普及できるような結果は得ていないが、活動成果を上げていると思われる。</li> <li>■関係機関との連携、メーカー、販売店との調整等、農家の間に立ち、きめ細やかな対応で十分な成果が出ている。</li> <li>■B品、C品が多くなり、かつ処理コストの上昇について、経営上の観点から検討を重ねるべき。</li> <li>■3～5年の継続した調査が必要。</li> <li>■今後は糖度により販売先のニーズの開拓をさらに進めて欲しい。純益を多くする指導も必要。</li> <li>■ただし、トマトの味を犠牲にしても収量を上げることで将来的な経営安定が実現できるか、将来性という点で検討も必要。</li> <li>■今回の技術導入で新たに生じた「乱形果の増加と糖度の低下」は農家所得に直接的な影響を及ぼす深刻な課題。今後、さらなる対応を期待する。</li> </ul>	

評価 A:おおむね適切である。 B:部分的に検討が必要である。 C:見直しが必要である。

普及指導計画への反映状況等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■次作では、病原菌の持込、侵入を前提として接ぎ木苗による病害抑制効果を検証する。</li> <li>■継続して、生育調査、収量調査を実施し、経営面における検証を行う。</li> <li>■乱形化の増加や味の低下については、引き続き情報収集を行っていく。</li> </ul>	